

同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR) / 神学部・神学研究科 共催

**Jews and Christians, Jews and Muslims:
The interactions of these religions in historical and cultural
perspective**

ユダヤ教徒、キリスト教徒、ムスリムの相互作用 — 歴史的、文化的見地から

公開講演会

**The Right to the Holyland:
Contending Jewish and Arab Claims of Legitimacy**

聖地の権利：ユダヤ、アラブの正当性をめぐる論争

<講師>

Prof. Ilan Troen イラン・トロエン教授

(ブランダイス大学 中近東・ユダヤ学部 イスラエル学/The Schusterman センター長)

2011 年 1 月 22 日(土) 13 : 00—15 : 00

同志社大学 今出川キャンパス

神学館 3F チャペル



入場無料・事前申込不要

*お問い合わせ先

同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR)

TEL. 075-251-3972

E-mail: info@cismor.jp

HP: <http://www.cismor.jp/>

【 プログラム 】

1)	開会挨拶	13 : 00－13 : 05	勝又悦子
2)	講師紹介	13 : 05－13 : 10	水谷誠（同志社大学神学部長）
3)	講 演	13 : 10－14 : 30	イラン・トロエン
4)	質疑応答	14 : 30－15 : 00	

司会： 勝又悦子（同志社大学 神学部助教）

講師： イラン・トロエン

（ブランダイス大学 中近東・ユダヤ学部 イスラエル学教授／The Schusterman センター長）

【 講師紹介 】

■ イラン・トロエン Ilan Troen

ブランダイス大学で学士号を取得した後、シカゴ大学から修士号、博士号を授与される。1975－2006 年までイスラエルのベン＝グリオン大学で現代史を教える。現在、同大学の名誉教授。

2004 年より、ブランダイス大学の中近東・ユダヤ学部（Near Eastern and Judaic Studies Faculty）でイスラエル学に関して教鞭を執る傍ら、同大学のイスラエル学に関する The Schusterman センター長を務める。

アメリカ、ユダヤ、イスラエルの歴史に関する 11 冊の書物を編集及び執筆し、『イスラエル研究』（インディアナ出版局）の初代編集長も務める。

主な近著は以下の通りである。

- "Jewish Centers and Peripheries: European Jewry between America and Israel 50 Years after World War II" (1998)
- "The Americanization of Israel" (2001), with Glenda Abramson
- "Divergent Jewish Cultures: Israel and America" (2001), with Deborah Dash-Moore
- "Imagining Zion: Dreams, Designs and Realities in a Century of Jewish Settlement" (2003)
- "Jews and Muslims in the Arab World; Haunted by Pasts Real and Imagined" (2007) with Jacob Lassner
- Forthcoming with Maoz Azaryahu is "Tel Aviv: The First Century; Visions, Designs and Actualities" (2011)

【 トローエン教授 発表概要 】

神学研究科教授 アダ・タガー＝コヘン

本日講演いただくトローエン教授は、アメリカ合衆国において「イスラエル学」と呼ばれる新たな学問分野に関する特別なプログラムを設置した先駆者として知られています。「イスラエル学」とは、イスラエルの歴史および政治、文化、社会に焦点を当てたものであり、本講演においては、宗教的多元性の観点から、また政治的文脈から聖地に対するイスラエルの歴史的正当性に関して考察する機会が与えられるでしょう。トローエン教授の講演は、本公開講演会に続き、非公開の一神教学際研究センター（CISMOR）主催ワークショップにおいても実施されます。

公開講演会

“The Right to the Holyland: Contending Jewish and Arab Claims of Legitimacy”

（聖地の権利：ユダヤ、アラブの正当性をめぐる論争）

ユダヤ人、クリスチャン、ムスリムは、イスラエル／パレスチナの地—ヨルダン川から地中海に至る領域—に関する宗教的且つ世俗的論争を引き起こしてきた。これらの三つの一神教は数世紀に渡り、「所有者」あるいは支配者の正当性に関して多様な見解を発展させてきた。実際、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム間におけるのと同様に、各宗教内においても異なる見解が存在してきた。しかしながら、それらの宗教的主張の全てはたいてい「宗教内部」に限られるものであった。異なる共同体の信仰者に提示される場合、それらの主張は最も都合よく表現されてきた。これらの状況は大変複雑である。しかし仮に多くの宗教的・世俗的主張に関して妥協に至るならば、ユダヤ人、クリスチャン、ムスリムが「聖地」であるとみなす場所を巡って合意に達し得る対話へと発展する可能性が開かれるであろう。

非公開ワークショップ

“Jewish Settlement: Theological and Secular Justifications”

（ユダヤ人入植地：神学的・世俗的正当性）

三つの事例研究

1. 第一次アリヤーに対する動機、1880－1910年代の移民の波
2. 1948年の戦争：「ナクバ」、「独立」（“Independence”）、「解放」、「コムミュート」（独立、主権）といった専門用語から、如何に神学的・世俗的解釈を読み取ることが可能か。
3. エルサレムあるいは、アル・クッズ（Al-Quds）、それともテラ・サンクタ（Terra Sancta）か。

MEMO

<次回ご案内>

日本オリエント学会/CISMOR 共催

公開講演会

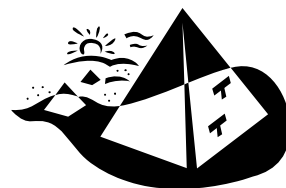
「メンフィスとテーベ：古代エジプト社会における神々・王・人間」

【日時】 2011年 2月12日（土）13:00－15:00

【会場】 同志社大学 今出川キャンパス 明德館1階 M1 教室

【講師】 中野智章（中部大学国際関係学部准教授）

参加費無料・事前申し込み不要



皆さまのお越しをお待ちしています！